

第3回北大阪先天性心疾患フォーラム

日 時：2009年6月13日

会 場：阪急ターミナルスクエア 17階「富士の間」

当番世話人：大道正英（大阪医科大学 産婦人科学）

代表世話人：勝間田敬弘（大阪医科大学 胸部外科学）

1. 負荷試験により治療方針を決定した、慢性肺疾患に合併した肺高血圧の2例

大阪医科大学附属病院 小児科

岸 勘太，奥村謙一，森 保彦，玉井 浩

【背景】慢性肺疾患（CLD）に合併した肺高血圧（PH）は予後不良であるが，自然にPHが改善する例もあり，個々の症例に応じた治療が必要である．今回，治療方針決定に心臓カテーテル検査での負荷試験が有用であった2例を報告する．【負荷試験】酸素負荷：100%酸素をマスクで投与，10分後に圧測定を施行．sildenafil 負荷：2.0mg/kgを胃管から投与．投与後，30分，60分，90分に圧測定を施行．【症例・結果】①1才，男児．25週，662gで出生．CLD grade: severe．治療：HOT，利尿薬．カテーテル結果（1才時）；負荷前，sPAP/sBP=0.9，Rp=16.5．100%酸素負荷後，sPAP/sBP=0.51，Rp=6.51と反応を認めた．カテ後も，酸素投与を継続し，心エコー所見と症状の改善を認めた．②11ヶ月，女児．29週，648g（IUGR）．CLD grade: moderate．治療：HOT，利尿薬．カテ結果（11ヶ月時）；負荷前，sPAP/sBP=1.1，Rp=13.1．100%酸素負荷，sPAP/sBP=0.92，Rp=10.9と反応が乏しく，sildenafil 負荷試験を施行．負荷後，sPAP/sBP=0.81，Rp=8.6と良好な反応を認めた．カテーテル後，sildenafilの内服を開始．心エコー所見と症状の改善を認めた．【考察】CLDに合併したPHにおいて，負荷テストにより適切な治療の選択が可能であることが示唆された．また，症例2でsildenafilによる急性効果を認め，CLDに合併したPHにおける治療薬として期待できる．

2. 当院における極低出生体重児の動脈管開存症に対する外科的治療について

大阪医科大学附属病院 周産期センター

平 清吾，大植慎也，山岡繁夫，長谷川昌史，安井昌子，稲富 直，荻原 享

【目的】2007年4月にPDAに対する外科治療が開始となった当院における極低出生体重児の動脈管開存症（以下PDA）に対する自然閉鎖群，インダシン投与群，インダシン投与後クリッピング群の3群で短期予後（敗血症，壊死性腸炎（NEC），脳室内出血（IVH））を検討する．中でも予後に大きな影響を与える慢性肺疾患（BPD）の併発について，血清KL-6値を測定し評価検討する．【対象】2007年4月1日から2009年4月現在，大阪医科大学周産期センターで出生した出生体重1250g満の児及びPDA結紮術目的で新生児搬送により当院へ転院となった児計8例．先天性奇形および染色体異常，生後72時間以内に死亡した例，修正週数36週までに転院となった例は除外した．慢性肺疾患（BPD）の診断はNational Institutes of Health consensus definitionに従った．【結果】敗血症，壊死性腸炎，脳室内出血の発生率は3群ともに差はなかった．自然閉鎖群は有意にSGAが多く，在胎

週数が長く、出生前ステロイド投与が多かった。自然閉鎖群よりクリッピング群には肺出血が多く、人工換気日数が長かった。【考察】クリッピング群は n が少なく、院内発生も少なかったため今回の研究では統計学的パワー不足であった。慢性肺疾患はインダシン後+手術群で有意に増加するという文献的報告がある。同様にインダシン群に比して、クリッピング群は血清 KL-6 値が日齢 21, 28, peak でやや高値である傾向があった。今後は症例の蓄積により統計学的に有意になる可能性がある。この血清 KL-6 値の上昇は PDA 閉鎖日齢より前であることから、手術の影響だけではなく、PDA 開存による肺血流の増加や人工換気日数の増加による肺障害による影響も考えられた。【謝辞】貴重な症例の情報を頂いた済生会吹田病院 小児科 小川 哲先生，坂 良逸先生，謝花 幸祐先生，そして市立豊中病院 小児科 河本 浩二先生に感謝いたします。

特別講演「心臓病合併妊娠の取り扱い」

国立循環器病センター 周産期治療部

部長 池田智明